



10年後の学校に通ってみよう

～日本の未来はどうなるの？～



熊本学園大学附属高等学校2年

■研究の目的・背景・仮説 (Introduction)

親から学生時代の話聞いたとき、自分たちの今の学校生活とだいぶ違うなと思った。そこで自分達の小学生時代と今の小学生では遊び方や勉強方法が違っているのではないかと感じ、過去と今の学校の違いを調べることにした。自分達が教師になったときの教育方法や学校の在り方を様々な面から考察し未来の学校について調べ、実際に子供に教える立場や自分の子供を学校に通わせる立場になったときに役立てたいと思いこの研究を始めた。

〈仮説〉

- 一人っ子の増加により、子供一人一人に対する保護者の熱心な教育→小学生から塾に通ったり、習い事をたくさんする子供が増えている
- インターネットの普及によるSNSトラブルの増加

■材料と方法 (Materials and Methods)

まず、実際に子どもたちと深く関わっている小学校の教師の方々にインタビューをしに行った。その後、高校生を対象にアンケートを行い、それぞれの結果とインターネットの結果を踏まえて考察を行った。

インタビュー①

熊本学園大学附属高校の近くにある大江小学校の先生方にお話を伺いに行った。インタビュー内容は

- ①一人っ子の数は増加しているのか
- ②教育方法で変わったと感じること
- ③児童のスマートフォンの利用状況

アンケート②

本校の生徒約200人に、SNSを利用してアンケートを行った。

- ・兄弟の数
 - ・小学生のころにしていた習い事の数
 - ・したくない習い事を無理やりさせられたことがあるか。
- これらの質問についての関係をグラフに表してみた。

■結果 (Results)

結果は、以下の通りになった。

結果1

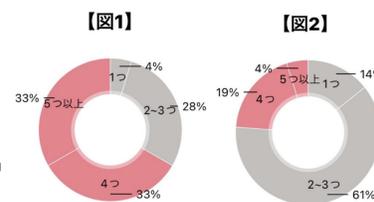
【インタビュー】

- ①一人っ子の数は増加しているのか
→あまり変化していない
- ②教育方法で変わったと感じること
→授業でタブレットを使用するようになった。
・タブレットも文房具の1個として使われるようになっており、どのように使いこなせるかが大事になっている。
・保健や性教育の在り方が変化してきている。
- ③児童のスマートフォンの利用状況
→今は特に学校でのルールはないがタブレットが導入されたことで保護者との連絡もとれるようになっており、持ってきている人はほとんどいない。
しかし、スマートフォン自体を持っている人はいる。

結果2

【アンケート②】

一人っ子である人は、全体の約10%で、約80%の生徒は2人兄弟か3人兄弟であった。一人っ子の生徒(21名)の、小学生のときしていた習い事の数グラフに表した。【図1】グラフを見て分かるように、6割以上の生徒が4つ以上の習い事をしていたことが分かった。同様に、兄弟が4人以上いる生徒(23名)で調べてみたところ、4つ以上の習い事をしていた生徒は、たったの約2割であった。【図2】



したがって、結果1の【インターネット①】で分かったように、実際に兄弟の数と習い事の数には関係があることが分かった。また、したくない習い事を無理矢理させられた経験がある生徒は、全体の約3割で、保護者は子供の意見を尊重すべきであることが課題であることも分かった。

【インターネット】

- ①教育熱心な親は増加しているのか。
「ここ10年間で、早期教育や小学校受験に熱心な保護者」の割合は「増えた」と54.0%が回答。「減った」はわずか4.3%と、教育熱心な親は増加していると言える。
- ②なぜ増加しているのか
早期教育そのものに対する疑問とともに、「他の家庭で早期教育を行っているという理由から自分の子どもも受けさせないといけなく」と考えるから。自身は早期教育への必要性に疑問を抱いても、周囲の親があまりにも熱心なため、それに影響されて「我が子に不利な思いをさせたくない」と同調する親も少なくない。
- ③保健や性教育の授業について
日本の性教育は、世界の先進国の中で最も遅れていると言われている。学習指導要項でも、性交に関しては扱わないという旨の文言が記されている。実際、児童ポルノ事犯は減少していないというデータもある。SNSを介した子どもたちの性被害も増えている今、性教育のアップグレードが必要である。そこで、2021年度から子供たちが性暴力の加害者、被害者、傍観者にならないよう、全国の学校において「生命(いのち)の安全教育」を推進することになった。



■考察 (Discussion)

この探究活動を通して、これからの教育に必要な不可欠であるものは、高度な性教育やICTを上手く活用する方法を伝えることであると考えた。

そこで私たちは、テーマにもあるように、10年後の小学校の時間割を予想して、作ってみた。今の時間割と変わっているところは、小学生のうちから情報の授業が必須となり、保健の授業や講習会で性について詳しく正しく学ぶ場をつくっているところである。

	月	火	水	木	金
1	国語	算数	国語	行事	国語
2	算数	国語	算数	理科	外国語
3	音楽	情報	体育	算数	体育
4	社会	情報	道徳	外国語	情報
5	家庭	社会	音楽	図工	保健
6	体育	外国語		図工	保健

私たちが、この探究結果を元にこのような時間割を作成したのは、日本の教育は、ICTと上手く付き合う方法や、プログラミングなどを小学生のうちから深く学ぶべきだと考えたからだ。

また、日本の性教育は他の国と比べて発展しておらず、このままでは、望まない妊娠による中絶で、尊い命を奪ってしまったり、児童ポルノやSNSでのトラブルの被害者になってしまう子供たちが増えてしまったりする可能性がある。被害者になってしまうだけでなく、加害者になってしまう可能性もあるため、義務教育の早い段階から、「性教育は恥ずかしいことではない」と認識させる必要があると考えた。

そして、保護者は子どもに大きな期待をして様々なことをさせるのではなく、子どもの意欲や意見を尊重すべきであると思う。

私たちにできることは、このような研究結果があることを広め、これからの学校教育や未来の自分の子ども達との向き合い方について見直すことだ。

参考文献 (Reference)

SNS利用による性被害等から子供を守るには
<https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201508/1.html>

教育熱心な親は増えているのか
<https://wezzy.com/archives/60509/amp>

海外の性教育は日本とどう違う？
<https://my-muse.jp/167>

謝辞 (Acknowledgments)

インタビューに快く対応してくださった大江小学校の先生方、アンケートに協力してくださった熊本学園大学附属高校の生徒のみなさん、本当にありがとうございました。